

## 1. 理念・目的

## 中期目標

- 【目標1】 大学・学部・研究科等の理念・目的を、定期的に検証し適切に維持する。  
 【目標2】 大学・学部・研究科の理念・目的を、大学構成員(教職員および学生)に周知し、社会に公表する。  
 また、認知度を向上させる。

## (1) 大学評価委員会

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)			達成度評価指標【指標1】
[1-1] 大学の理念・目的に定める人材育成が、時代に適合し社会から高い評価を受けることができる内容であることを、指標に基づいて客観的に評価し、検証する。			①進路決定状況(自律) ②社会活動参加状況(人権・共生) ③学内の諸活動参加状況(協働)
2016年度	年次計画内容 [1-1] 中期計画に基づき、3つの達成度評価指標に基づく評価を引き続き実施し集約する。その結果に基づき、「北海道に貢献しうる人材育成」の達成状況を検証する。	計画実施状況 3つの達成度評価指標を集約した。①は2015年度卒業生の就職者全体に占める道内企業の就職者の割合を、②③は2016年に本学HPにおいて広報された件数を調べた。結果として、①は引き続き約7割の卒業生が道内企業に就職をし、②は減少したものの、③は増加している。	指標に基づく中期目標の達成状況 ①は卒業生の就職者全体に占める道内企業の割合を算出した。2015年度は71.1%。 ②③は本学HPで広報された件数をカウント。2016年は②が28件、③が14件。
2017年度	年次計画内容 [1-1] 3つの達成度評価指標に基づく評価を引き続き実施し集約すると共に、大学の理念・目的と学部・研究科の目的の関連性を改めて検証・確認する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)			達成度評価指標【指標2】
[2-1] 刊行物、ホームページ、ガイダンスを通じた周知方法の効果を検証するとともに、新たな周知方法を検討する。			①理念・目的の認知度調査結果
2016年度	年次計画内容 [2-1] 大学の理念・目的を、多様な機会を用いて構成員に広報・周知し、理解度と認知度が深まるように引き続き工夫する。また、理念・目的の認知度調査について、2017年度の実施に向け、その方法・対象学年・設問内容の精査を行う。	計画実施状況 ガイダンスやホームページで周知を行っているが、認知度調査の精査には至らなかった。	指標に基づく中期目標の達成状況 認知度調査の実施には至っていない。学内で実施しているほかのアンケート調査と組み合わせて行うことを検討したい。
2017年度	年次計画内容 [2-1] 大学・学部・研究科の理念・目的の周知について、公表媒体及び内容の適切性を検証する。また、認知度調査について、学内で実施しているほかのアンケート調査と組み合わせて行う。		

## (2) 経営学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)			達成度評価指標【指標1】
[1-1] 現行の経営学部の目的と、これまでの教育・研究活動の成果との関連性について評価する。			①進路決定状況(自律) ②社会活動参加状況(人権・共生) ③学内の諸活動参加状況(協働)
2016年度	年次計画内容 [1-1] 現行の経営学部の目的と、2016年度の教育・研究活動の成果との関連性について評価する。	計画実施状況 学生一人ひとりに対してきめ細かな実践教育ならびに就学指導を展開し、学部が掲げる目的と理念に沿った人材を育成した。	指標に基づく中期目標の達成状況 2016年度の就職内定率は昨年に比べて高く推移している。
2017年度	年次計画内容 [1-1] 特に、実践的な知識を現実社会に応用していく能力が培われているかを評価する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)			達成度評価指標【指標2】
[2-1] 刊行物、ホームページ、ガイダンスを通じた周知方法の効果を検証するとともに、経営学部では1年次から4年次まで少人数のゼミを開講しているため、その機会を利用するなど新たな周知方法を検討する。			①理念・目的の認知度調査結果
2016年度	年次計画内容 [2-1] 大学・学部の理念・目的等について、学部ガイダンスやゼミにて説明を行い、周知を図る。	計画実施状況 経営学部の理念や目的を、入学式、新入生ガイダンス等において周知した。	指標に基づく中期目標の達成状況 経営学部の理念や目的を定期的に周知することはできているが、認知度を調査・検証する方法について検討を行う必要がある。
2017年度	年次計画内容 [2-1] 教職員一人ひとりが、大学・学部の理念・目標を改めて認識することで、刊行物、ホームページ、ガイダンス、ゼミを通じた理念・目的の周知を徹底する。		

## (3) 経済学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)			達成度評価指標【指標1】
[1-1] 現行の経済学部理念・目的と教育・研究活動の成果との関連性について検証し、評価する。			①進路決定状況(自律) ②社会活動参加状況(人権・共生) (他校とのセミナー開催・参加あるいはインターンシップ活動への参加について統計データを用いる)

1. 理念・目的

			③学内の諸活動参加状況(協働) (入学式や卒業式やその他の行事での学生からの援助などの統計を用いる)
2016年度	<b>年次計画内容</b> [1-1] 「自律」、「人権」、「共生」、「協働」という理念を体現する取り組みを積極的にリサーチし、本学の人材育成の目的が適切に機能していることを引き続き検証する。	<b>計画実施状況</b> 「自律」に関しては、進路決定状況を毎月報告し、確認した。「人権」、「共生」については、他大学とのセミナー参加・報告、インターンシップへの参加を促す、ゼミⅠで合同ゼミを開催するなどして、体現することに努めた。「協働」については、入学ガイダンスの際に学生サポートを呼びかけるなどをした。これらの方法を議論したものの、本学の人材育成の目的が適切に機能していることは完全には検証できていない。	<b>指標に基づく中期目標の達成状況</b> 現行の経済学部理念・目的に従い、教育・研究活動を行ってきたが、今後も関連性については具体的に検証していく。
2017年度	<b>年次計画内容</b> [1-1] 「自律」、「人権」、「共生」、「協働」という理念を体現する取り組みを積極的にリサーチし、本学の人材育成の目的が適切に機能していることを引き続き検証する。		

<b>中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)</b>			<b>達成度評価指標【指標2】</b>
	[2-1] 大学の刊行物、経済学部のホームページ、ガイダンス、保護者懇談会、高校訪問などの機会を通じて、多様な方法で理念や目的を周知し、その認知度を高める。さらに、各方法の効果を検証し、必要があれば新たな周知方法も検討する。		①ホームページへのアクセス数 ②大学の広報室の活動から得られる情報 ③高校訪問、保護者懇談会などの生の情報
2016年度	<b>年次計画内容</b> [2-1] 大学・学部の理念・目的について、学部ガイダンスやオープンキャンパス、父母懇談会の冒頭にて説明を行い、周知を図る。さらに、教職員の認知度を向上させる。	<b>計画実施状況</b> 学部ガイダンスやオープンキャンパス、保護者懇談会にて説明し、周知を図った。特に、広報入試課で割り当てられる高校訪問のほかに独自の高校訪問をして、高校の校長先生、教職員に本学および経済学部の認知度を向上させた。また、3ポリシー改定の議論をし、教職員の認知度も向上できた。	<b>指標に基づく中期目標の達成状況</b> 昨年度以上に認知度を高めるよう継続して努めた。またオープンキャンパス、保護者懇談会におけるアンケートを確認して効果を検証したが、新たな周知方法は現段階では必要ない。
2017年度	<b>年次計画内容</b> [2-1] 大学・学部の理念・目的について、学部ガイダンスやオープンキャンパス、父母懇談会の冒頭にて説明を行い、周知を図る。さらに、教職員の認知度を維持させる。		

(4) 人文学部共通

<b>中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)</b>			<b>達成度評価指標【指標1】</b>
	[1-1] 大学の理念・目的および人文学部の目的と、各学科における教育・研究活動の成果との関連性について評価する。		進路決定状況
2016年度	<b>年次計画内容</b> [1-1] 2015年度卒業生の進路状況を分析するとともに各学科の教育研究活動との関連性について検証する。	<b>計画実施状況</b> 各学科の就職委員が学科の就職内定状況を報告し、周知し学部で共有した。とりわけ資格に関する就職状況はこども発達学科(教職)で上昇した。また、英語英米文学科に資するANAとの協定を大学側で結んだ。(根拠資料)	<b>指標に基づく中期目標の達成状況</b> 各学科の履修モデルと出口の関係を学生に明確に理解させる必要がある。進路決定の検証は、各学科を中心に進め、学部(学部運営会議、教授会)で認識する必要がある。
2017年度	<b>年次計画内容</b> [1-1] 16年度、学生・受験生に向けた「自校教育」(本学の理念、歴史の紹介)が展開されたが、教員においても本学の理念を改めて熟知し、これに基づいた教育内容・出口(進路・就職)の検証を学部レベルで行なう。		

<b>中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)</b>			<b>達成度評価指標【指標2】</b>
	[2-1] 人文学部教員ならびに関係職員が、大学・学部の理念・目的を理解し、その教育・研究活動との関連性について検証する。 [2-2] 学生や社会に対し、刊行物、ホームページ、ガイダンスを通じた周知方法の効果を検証するとともに、新たな周知方法を検討する。		[2-1,2-2 共通] 理念・目的の認知度調査結果
2016年度	<b>年次計画内容</b> [2-1] 大学・学部の目的を理解させ、それを有効に教育・研究活動に反映させる方法を検証する前提として、学部教員の教育研究活動を可視化し、これを共有するための方策を検討する。	<b>計画実施状況</b> [2-1] 教授会で特任教員を含むすべての学部専任教員の教育・研究状況(学会出張、講演会招聘、研究出版、学外委員の委嘱等)を年度に3回資料として提供した。人文研究会では新任教員の研究発表を実施し、すでに可視化をはかっている。	<b>指標に基づく中期目標の達成状況</b> 大学の理念・学部の目的は大学、学部の諸行事で学長、学部長が説いているところであるが、学部で発刊される各種報告書においてもそれらが強調されている。これを継続し、また報告書の中身(例「福祉実習報告書」)には理念が反映された教育が展開されていることが伺える。引き続き大学の理念に沿った教育・研究活動を推進することが課題となる。 【指標なし】
	[2-2] キャリア支援課、広報入試課と調整をはかりながら、学部運営費も活用しつつ学部の教育内容、教育活動の広報に努める。	[2-2] 学生に向けては人文学部が関係する諸行事において学長、学部長が大学の理念を学生に説いてきた。また、学部ホームページの更新を実施した。臨床心理学科では学部運営費を活用し、高校生を対象としたセミナーを実施した。キャ	学部固有(=各学科固有)のホームページが一新されたことに伴い、より充実した、またタイムリーな広報をホームページ上でうつことが課題となる。キャリア支援課、広報入試課との連携についてはどのようなことが可能であるか引き続き検討す

		リア支援課、広報入試課と学部との連携した広報については学部からの働きかけはとくにできなかった。	る必要がある。  【指標なし】
2017年度	年次計画内容		
	[2-1]	教育・研究活動の一層の可視化をはかるため、教授会で共有する情報を適宜増やして行く。	
	[2-2]	学部の教育内容を構成員が把握・周知し、これを入試・広報に資するべく高・大接続へと展開する方策を検討する。	

## (5) 人文学部人間科学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)			達成度評価指標【指標1】
[1-1] 毎年履修要項の改正時期にあわせて、学科の理念・目的及び「人間科学科教育のめざすもの」を学科会議等において確認・検証する。			履修要項
2016年度	年次計画内容		指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1]	新年度の履修要項を作成するにあたり、その内容を学科会議などで検討・確認する体制を継続する。	計画実施状況 [1-1] 新年度の履修要項の作成にあたっては、そのつど学科会議・教務委員会で検討・確認した。
			検討の結果、適切に維持できていると判断できる。従って、来年度以降もこの体制を継続する。 【指標：履修要項】
2017年度	年次計画内容		
	[1-1]	新年度の履修要項を作成するにあたり、その内容を学科会議などで検討・確認する体制を継続する。	

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)			達成度評価指標【指標2】
[2-1] 刊行物、ホームページ、ガイダンスを通じた周知方法の効果を検証するとともに、新たな周知方法を検討する。			・種々の刊行物 ・ホームページのコンテンツおよびアクセス状況データ
2016年度	年次計画内容		指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1]	学科パンフレットの編集発行、および、新サーバーへの移行に伴う学部及び学科ホームページの再構築をとおして、学科の理念・目的の周知方法について学科会議で検討・確認する。	計画実施状況 学科パンフレットを1回発行した。学科ホームページ(ブログ)を年度内に21回更新した。
			・学科パンフレットは計画どおり発行できた。認知度向上についての検証は、次年度以降の課題である。 【指標①学科パンフレット】 ・ブログの更新を、予定(12回)を超えて行うことができた。 【指標なし】
2017年度	年次計画内容		
	[2-1]	学科パンフレットの編集発行、および、新サーバーへの移行に伴う学部及び学科ホームページの再構築をとおして、学科の理念・目的の周知方法について学科会議で検討・確認する。	

## (6) 人文学部英語英米文学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)			達成度評価指標【指標1】
[1-1] 現行の理念・目的と、これまでの教育・研究活動の成果との関連性について評価する。			①「実用英語」科目の履修状況 ②「専門分野」科目の履修状況 ③進路決定状況
2016年度	年次計画内容		指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1]	今年度は、学科の目的の1つである「英語運用能力の養成」に関し、教育活動の成果との関連性を検証する。	計画実施状況 「実用英語」の分野について、専門科目の教育活動の検証を行った。必修科目である Oral Communication においては、アメリカの高校生との交流、本学への留学生との国際学生会議、イングリッシュキャンプなど、英語運用能力養成のための実践的な活動が行われている。そのうちイングリッシュキャンプについては、学生のレスポンスシートを検証し、学生自身が活動の成果を十二分に実感していることも分かった。
			今年度は「英語運用能力の養成」の側面から検証を行い、教育活動と学科の教育目標に齟齬がないことを確認した。 【指標「2016年度7月学科会議資料 Oral Communication の報告」「2016年度9月学科会議資料 English Camp の報告」】
2017年度	年次計画内容		
	[1-1]	今年度も引き続き、学科の目的の1つである「英語運用能力の養成」に関し、教育活動の成果との関連性を検証する。	

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)			達成度評価指標【指標2】
[2-1] 刊行物、ホームページ、ガイダンスを通じた周知方法の効果を検証するとともに、新たな周知方法を検討する。			理念・目的の認知度調査結果
2016年度	年次計画内容		指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1]	昨年度に引き続き、学科の目的について、入学式の学科企画、学科ガイダンス、保護者懇談会等の冒頭にて説明を行い、周知を図る。また、理念・目的の認知度調査に関しては、全学の動向を見守るとともに、学科独自の調査方法について、検証を継続する。	計画実施状況 学科の目的、教育目標、各専門分野の教育・研究活動の関連性について、入学式の学科企画、学科ガイダンス、履修要項、保護者懇談会用刊行物、ホームページ等で公開した。今年度は新たに、出発前の半期留学生に教育目標を紹介し、留学の目的を再確認した。なお、理念・目的の認知度調査について、全学的調査が行われることはなかった。また、学科独自の調査方法については、学科運営会議で検討を行ったものの、その開始には至らなかった。
			今年度は教育目標の公開を継続するとともに、その周知の場を広げることができた。また、認知度調査の方法について、学科運営会議で検討を行った。 【指標 「HP」「履修要項」】
2017年度	年次計画内容		
	[2-1]	昨年度に引き続き、学科の目的について、入学式の学科企画、学科ガイダンス、保護者懇談会等の冒頭にて説	

1. 理念・目的

	明を行い、周知を図る。また、理念・目的の認知度調査に関しては、昨年度運営会議で検討した学科独自の調査方法について、学科会議で検証する。
--	---

(7) 人文学部臨床心理学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】
	[1-1] 臨床心理学科の理念・目標を維持するため適切な教育・研究活動が行われているかについて、学科教育の成果としての進路決定状況や資格取得状況を参考に臨床心理学科会議で検証する。	① 進路決定状況 ② 精神保健福祉士合格率 ③ 大学院臨床心理学研究科進学率 ④ 臨床心理士試験合格率
2016年度	年次計画内容	計画実施状況
	[1-1] 昨年度に引き続き、本学科の人材育成の目的が適切に機能しているかを検証する。	逐次就職委員課程より報告される就職状況をもとに、就職状況の把握に努めている。学生の進路と心の問題の理解をつなぐカリキュラムについても検討している。
2017年度	年次計画内容	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 人材育成の目的のため、進路決定状況や資格取得状況を改めて検討する。	就職状況に大きな変化はなく、カリキュラムの問題が積み残されているだけであると考え。【指標①】

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】
	[2-1] 臨床心理学科の目的について、入学式での学科長挨拶と新入生ガイダンスにおいて周知し、また学科のホームページや、学科の刊行物においても掲載する。また、2014年度より学科独自に開催している、高校生向けの市民講座においてもこの目的を周知し、学外の人びとにも広く浸透するような活動を行っていく。	学生生活アンケート
2016年度	年次計画内容	計画実施状況
	[2-1] 入学式等の機会に、本学科の目的について継続して周知を行う。	各機会において、本学科の目的については説明している。
2017年度	年次計画内容	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 入学式等の機会に、本学科の目的について継続して周知を行う。	学科の目標については周知できている。【指標なし】

(8) 人文学部こども発達学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】
	[1-1] 現行のこども発達学科の目的を、これまでの教育活動の成果との関連性について定期的に検証し、必要に応じて対策を講じ、両者の整合性を図る。	①教育機関・保育施設等の教育・子育て支援に関わる進路の決定状況 ②教員免許・保育士資格の取得状況 ③教員養成の理念 ④教職課程履修カルテ
2016年度	年次計画内容	計画実施状況
	[1-1] ①小学校課程や保育士養成カリキュラムなど、学科内外の変化を捉えた教育理念と目的を再確認していく。 ②学科の卒業生の進路の動向、現在の在学学生数、入学者数の経年変化を整理し、教育目標にあっているかを確認する。 ③3年目を迎える保育士養成カリキュラムの希望者の動向を把握し、教育目標と学生の進路の整合を図る。また実習のための「保育実習ハンドブック」の運用、改善をおこなう。 ④教職課程希望学生が自らの履修状況を把握するための「教職課程履修カルテ」を活用と修正を重点的に行い、教育活動の充実を図る。	小学校課程や保育士養成カリキュラムなど、学科内外の変化を捉えた学科の3つのポリシーとして修正した。 卒業生の動向の把握(10周年記念、卒業生の会)や他大学(文教大学)の現状調査をおこなった。 保育士養成カリキュラムの動向に合わせて「保育実習ハンドブック」を運用した。 「教職課程履修カルテ」を現状に見合ったものに修正をしながら対応した。
2017年度	年次計画内容	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] ①小学校教職課程や保育士養成カリキュラムが、現状の社会に応じた教育理念と目的にかなっているかを再確認する。 ②これまで行ってきた卒業生の進路の動向、現在の在学学生数、入学者数の経年変化を今後も継続的に注視し、教育目標にあっているかを確認し続ける。 ③完成年度を迎える保育士養成カリキュラムによって育成してき学生の将来の志望を把握し、教育目標と整合するように努める。そのために「保育実習ハンドブック」の活用を行う。 ④「教職課程履修カルテ」の活用を全学生が十分に行えるように指導し、教育活動の充実を図る。	調査を4/5実施。整理と対策を3/4実施。検証と維持を0/2実施。 【指標「目標達成のための計画表」(以下「計画表」)D1-1】 【指標「進路希望調査」】 【指標「教員免許取得状況」】 【指標「教職課程履修カルテ」】 【指標「こども発達学科の3つのポリシー」】 【指標「こども発達学科卒業生の会記念文集」一部分】 【指標「こども発達学科卒業生の会」】 【指標「文教大学との情報交換会」】

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】
	[2-1] こども発達学科の理念・目的の周知効果を検証するとともに、新たな周知方法を検討する。	①進路別、学年別の履修状況 ②ホームページ更新数、閲覧数
2016年度	年次計画内容	計画実施状況
	[2-1] ①こども発達学科は設立10年目となるが、その理念・目的、さらにはこれまで積み上げてきた卒業生の実績を整理し、社会や高校に十分届いているかを把握して足りない点や新たな周知方法を探る。	10周年記念常業を開催し、卒業生と在学学生の交流をはかった。また学科全体の学生教職員による「こども発達学科大運動会」を開催した。従来の手法から全教職員が情報発信できるブログ形式に再構築を進
2017年度	年次計画内容	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] ①こども発達学科は設立10年目となるが、その理念・目的、さらにはこれまで積み上げてきた卒業生の実績を整理し、社会や高校に十分届いているかを把握して足りない点や新たな周知方法を探る。	学内：調査を3/3実施。検証と対策を2/2実施。達成を0/1実施。 学外：調査を3/3実施。検証と対策を2/4実施。達成を0/1実施。 【指標「計画表」D1-2】 【指標「こども発達学科卒業生の会記

	②学科の卒業生にかかわる組織設立に重点的に取り組み、彼らを通じて臨時採用の既卒生への情報提供や周知を心がける。 ③教職員の誰もが情報発信をできるようなホームページ（ブログ形式）のシステムの再構築に取り組む。	め、現在移行作業を進めた。	念文集」一部分】 【指標「こども発達学科大運動会」プログラム】
2017年度	<b>年次計画内容</b> [2-1] ①こども発達学科の理念・目的が、社会や高校に十分伝わっているか再度点検し、これまで積み上げてきた卒業生の実績をよりよく周知するよう方策を探る。 ②昨年度設立した卒業生会を通じて新規卒業生と既卒生間の情報交換を進めていく。 ③新しくなった学科のホームページを利用して、全職員が学内外に情報発信を行えるように心がける。		

## (9) 法学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
	[1-1] ①現行の理念・目的と、これまでの教育・研究活動の成果との関連性について評価する。 ②①の関連性の評価にもとづき学部の理念・目的を定期的に検証する。		①社会活動への参加状況（豊かな人間性の涵養及び人権感覚を基盤とした法的思考能力） ②法学検定試験の合格状況（法の役割と内容の教授研究） ③国際交流状況（国際感覚） ④就職状況（人材の育成）
2016年度	<b>年次計画内容</b> [1-1] ①法学部の目的である「人権感覚と国際感覚を基盤とした法的な思考能力を展開させる」という点の中の「人権感覚」にかかわり、北海道警察の非行少年立ち直りのボランティアへの参加、本学の聴覚障がい者のサポートへの参加を奨励する。また、教育目標にある「社会で生じる様々な問題や紛争を法的に処理する実務的な専門能力を養成する」という点にかかわり議員インターンシップの参加を奨励する。 ②目的の「法の役割と内容の教授研究」、教育目標の「法の理念や解釈に関する知識を習得させ」という点にかかわり、法学検定試験の受験を奨励し、学力の向上に向けた努力を誘導する。 ③法学部の目的である「人権感覚と国際感覚を基盤とした法的な思考能力を展開させ」という点の中の「国際感覚」にかかわり、法学部の授業科目である「海外フィールドワーク」など国際交流事業に学生の参加を奨励する。 ④目的の「個性が尊重される社会の実現に貢献しうる人材を育成すること」にかかわり、法学部の内定率（留年生を含む）を90%以上にするよう努める。 ⑤上記の年次計画の達成状況を総合的に判断して、学部の目的（理念）及び教育目標が妥当であるのかを点検する。	<b>計画実施状況</b> [1-1] ①北海道警察の非行少年の立ち直りをサポートする jumpers のガイダンスを、北海道警察少年課の担当刑事に来ていただき開催した。多くの法学部生が登録した。また聴覚障がい学生のノートテイクのボランティアについても、ガイダンスや授業を利用して法学部生に誘導を図った。議員インターンシップについても、授業時間の一部を使い、法学部生のスタッフ（NPO ドッドジェイピー）による説明会を開催した。 ②法学検定試験対策の法学部の専門科目「法学スキル基礎」（2年生履修科目）を前期に開講した。また今年度からは専門科目「法学スキル応用」（2年生履修科目）を後期にマルチの形態で開講し、試験対策を充実させた。 ③「海外フィールドワークA」を開講し、研修旅行として韓国の建国大学に学生を引率した。またキャリアスキル基礎B、キャリアスキル応用Bにおいて、元高校の英語の先生2名に非常勤講師を委嘱し、英語の基礎学力を身に着けさせるための英語教育を行った。外国書講読A、外国書講読Bでは、キャリアスキル基礎B、キャリアスキル応用Bに連続させる形で、英語の学力向上を図った。来年度も同じ体制を続けることにしている。このような英語教育を通じて、学生の英語能力を向上させるとともに、海外に関心をもつよう努めた。 ④就職状況を改善するために前年度に引き続き、担任を介した就職指導を推進した。また後期の後半では、就職委員とともに学部長、学科長、教務委員長が未内定で就活が沈滞している学生に個別に連絡を取るなど指導を徹底した。 ⑤上記の年次計画の達成状況を総合的に検討した結果、学部の目的（理念）及び教育目標が妥当であると判断した。	<b>指標に基づく中期目標の達成状況</b> [1-1] ①北海道警察の大学生ボランティア jumpers には法学部生が8名以上登録しており、4名以上の学生が実際に非行少年の立ち直りサポートに参加している。本学における聴覚障がい学生のためのパソコンテイク・ノートテイク、さらに通学介助を合わせ4名の学生が参加している。議員インターンシップについては正確な人数把握はできないが、この数年は毎年5名程度の法学部生が参加している。これらのボランティア活動、議員インターンシップへの学生の参加を促すために、NPOの関係者などを講師とする法学部の専門科目「法政特殊講義A（地域活動実践論）」を前期に開講した。この授業を履修した学生が、女性の人権にかかわるNPOの活動に参加する事例が見られるようになった。専門科目の「地域インターンシップA」を履修することで、 ②法学検定ベーシックの受験者は119名、合格者は71名で合格率は60%であった。法学検定スタンダードの受験者は3名、合格者は1名であった。法学検定ベーシックの合格者は昨年比21%上昇し、全国の合格率は60%であり、開きはない。受験者が100名を大きく超え全国的にも多くの受験者を出す大学となるであろうことから、合格率を全国平均にまで引き上げるのは容易ではないが、達成できればそれは法学部の教育力の成果を示すものとなる。書き換え予定 ③国際交流を促す専門科目「海外フィールドワークB」では韓国の建国大学への研修旅行を実施した。これに参加した学生数は7名である。韓国の学生交流に加え、板門店を訪問するなど国際感覚をもつような研修プログラムにした。 ④法学部の2月末現在の内定率は91%を若干超える程度であり、目標値の90%以上に到達した。
2017年度	<b>年次計画内容</b> [1-1] ①法学部の目的である「人権感覚と国際感覚を基盤とした法的な思考能力を展開させる」という点の中の「人権感覚」にかかわり、北海道警察の非行少年立ち直りのボランティアへの参加、本学の聴覚障がい者のサポートへの参加を奨励する。また、教育目標にある「社会で生じる様々な問題や紛争を法的に処理する実務的な専門能力を養成する」という点にかかわり議員インターンシップの参加を奨励する。		

1. 理念・目的

<p>②目的の「法の役割と内容の教授研究」、教育目標の「法の理念や解釈に関する知識を習得させ」という点にかかわり、法学検定試験の受験を奨励し、学力の向上に向けた努力を誘導する。</p> <p>③法学部の目的である「人権感覚と国際感覚を基盤とした法的な思考能力を展開させ」という点の中の「国際感覚」にかかわり、法学部の授業科目である「海外フィールドワーク」など国際交流事業に学生の参加を奨励する。</p> <p>④目的の「個性が尊重される社会の実現に貢献しうる人材を育成すること」にかかわり、法学部の内定率（留年生を含む）95%に近づけるよう努める。</p> <p>⑤上記の年次計画の達成状況を総合的に判断して、学部の目的（理念）及び教育目標が妥当であるのか点検する。</p>
---

中期計画【計画2】（目標2に対応する計画）		達成度評価指標【指標2】	
[2-1] ①履修要項等の刊行物、ホームページ、高校へのニュースレター、掲示物、新年度の在学生向けガイダンス等の手段によって周知をはかるとともに、その効果を検証する。		① 刷物、HP などへの掲示実績	
2016年度	<p><b>年次計画内容</b></p> <p>[2-1] ①学部の目的（理念）及び教育目標を履修要項に掲載する。ホームページで紹介する。高校へのニュースレターでその趣旨などについて広報する。</p> <p>②①の年次計画が達成されているのか、またその効果について検証する。</p>	<p><b>計画実施状況</b></p> <p>[2-1] ①学部の目的（理念）及び教育目標を履修要項に掲載した。法学部の独自ホームページで紹介している。オープンキャンパスにおいて、また法学部生対象の4月上旬のガイダンスにおいて説明した。高校へのニュースレターでも広報した。</p> <p>②①の年次計画が達成されているのか、またその効果について検証した。</p>	<p><b>指標に基づく中期目標の達成状況</b></p> <p>①法学部の独自ホームページは2016年1月に大幅に更新しただけではなく、随時更新している。ニュースレターは2016年5月に発行し、高校に郵送した。ニュースレターには、法学部の教育目標及び教育戦略を明示した。</p> <p>②年次計画は達成されている。その効果については、法学部生が資格取得で成果をあげている点、また法学部の受験者数が増えている点などから見て、一定の効果があると判断できる。</p>
2017年度	<p><b>年次計画内容</b></p> <p>[2-1] ①学部の目的（理念）及び教育目標を履修要項に掲載する。ホームページで紹介する。高校へのニュースレターでその趣旨などについて広報する。</p> <p>②①の年次計画が達成されているのか、またその効果について検証する。</p>		

(10) 社会情報学部

中期計画【計画1】（目標1に対応する計画）		達成度評価指標【指標1】	
現行の目的と、これまでの教育・研究活動の成果との関連性について評価する。		①課題研究・卒業論文へ取り組む姿勢 ②資格取得への取り組みと成果 ③学内の諸活動参加状況 ④社会的活動への参加状況	
2016年度	<p><b>年次計画内容</b></p> <p>大学・学部の教育目標にふさわしい取り組みを積極的に収集し、その成果を評価し、学内外へ発信していく。</p>	<p><b>計画実施状況</b></p> <p>課題研究・卒業論文において、学生個人が社会情報現象の現代的課題を取り上げ、大学生活を通じて培ってきた能力を用いて問題を把握・分析し、解決策を検討した。</p> <p>社会情報学部での学習の成果を資格取得に結びつけることを奨励し、資格取得に関する費用の一部補助を行った。</p>	<p><b>指標に基づく中期目標の達成状況</b></p> <p>①課題研究・卒業論文の成果は、要旨を抄録集としてまとめるとともに報告会を開催した。</p> <p>②情報系の資格試験の受験料補助を申請する者はいなかった。社会調査士の認定料補助を5名の学生に対して行った。</p> <p>③④学部として参加状況を把握できなかった。</p>

中期計画【計画2】（目標2に対応する計画）		達成度評価指標【指標2】	
履修要項、ホームページ、ガイダンスを通じた周知方法の効果を検証するとともに、新たな周知方法を検討する。		①理念・目的の認知度状況の把握 ②新たな周知方法の実行	
2016年度	<p><b>年次計画内容</b></p> <p>大学の理念・目的等について、学部ガイダンスで説明するとともに、これまでの教育成果についてまとめ、情報発信する。</p>	<p><b>計画実施状況</b></p> <p>学部ガイダンスにおいて大学と学部の理念・目的などについて説明を行った。4年生は学位記授与式で学業優秀生の表彰を行い、学習成果を公表した。</p>	<p><b>指標に基づく中期目標の達成状況</b></p> <p>①理念・目的についての認知度の把握は行わなかった。</p> <p>②新たな周知方法の検討は行わなかった。</p>

(11) 大学院法学研究科

中期計画【計画1】（目標1に対応する計画）		達成度評価指標【指標1】	
[1-1] 法学研究科は、本学の理念・目的、本研究科を取り巻く状況、本研究科の教育・研究活動の成果との関連において、本研究科の目的・教育目標の適切性について不断に評価を行う。		①本学の理念・目的 ②本研究科の置かれた状況 ③修士学位授与率 ④修了生進路状況	
2016年度	<p><b>年次計画内容</b></p> <p>[1-1] 2015年度に引き続き、本学の理念・目的、本研究科を取り巻く状況及び本研究科の教育・研究成果をふまえ、本研究科の目的・教育目標の適切性について評価する。</p>	<p><b>計画実施状況</b></p> <p>[1-1] 本研究科運営会議における検討では、今後の大学院再編に備えて全学的観点から法学研究科の在り方を検討する必要があることを確認した。</p>	<p><b>指標に基づく中期目標の達成状況</b></p> <p>②については、今年度実施の入学試験における本研究科志願者は10名と一定の需要水準を依然維持している。今年度も引き続き志願者全員が税法志望者であった。</p> <p>③修了対象者12名中8名に修士の学</p>

			位を授与した。 ④修了生 8 名中、税理士志望の 6 名が税理士事務所勤務であり、1 名が主婦、1 名が公務員である。
2017 年度	<b>年次計画内容</b>		
	[1-1] 2016 年度に法学研究科運営会議レベルで法学研究科と地域社会マネジメント研究科との相互関係について検討する方向で合意したことを踏まえ、2017 年度では、本学の理念・目的、本研究科を取り巻く状況及び本研究科の教育・研究成果を考慮して、地域社会マネジメント研究科と大学院の在り方について協議していくことにする。		

中期計画【計画 2】(目標 2 に対応する計画)		達成度評価指標【指標 2】	
	[2-1] 刊行物、ホームページ、ガイダンス等を通じた周知方法の効果を検証するとともに、必要であれば新たな周知方法を検討する。		①目的・教育目標の認知度調査結果
2016 年度	<b>年次計画内容</b>	<b>計画実施状況</b>	<b>指標に基づく中期目標の達成状況</b>
	[2-1] 2015 年度に引き続き、次の事業を行う。 ①『大学院案内』を発行する。 ②ホームページの内容の適切性について検討する。 ③学内及び学外に向け I 期及び II 期入試についての説明会を通じて周知を図る。 ④年度初めのガイダンスで周知を図る。	[2-1] ①『大学院案内 2017』を発行した。 ②ホームページの内容は現状で妥当であると判断した。 ③学内及び学外に向け I 期及び II 期入試についての説明会(学外では合計 4 回)を通じて周知を図った。 ④年度初めのガイダンスでも周知を図った。	①ガイダンスなどで周知を図っているため、目的・教育目標の認知度について特に調査は行わなかった。
2017 年度	<b>年次計画内容</b>		
	[2-1] 2016 年度に引き続き、次の事業を行う。 ①『大学院案内』を発行する。 ②ホームページの内容の適切性について検討する。 ③学内及び学外に向け I 期及び II 期入試についての説明会を通じて周知を図る。 ④年度初めのガイダンスで周知を図る。		

## (12) 大学院臨床心理学研究科

中期計画【計画 1】(目標 1 に対応する計画)		達成度評価指標【指標 1】	
	[1-1] 臨床心理士に求められる資質を涵養する臨床心理士養成指定大学院としての位置づけを検証し維持する。		①カリキュラム、シラバス ②臨床心理士試験合格者数 ③修了生就職先
2016 年度	<b>年次計画内容</b>	<b>計画実施状況</b>	<b>指標に基づく中期目標の達成状況</b>
	[1-1] 臨床心理士養成指定大学院としての位置づけを維持し臨床心理士資格に資する人材養成を行ってきているので、本年度の状況を把握し必要な対応を計画ないし遂行する。	計画に沿って遂行した。 ②は 11 名であった。前年度修了生の合格率は全国平均程であった。臨床心理士資格者数は累積で 126 名となり、研究科の目的を着実に遂行している。	① 達成(添付資料) ② 達成 11 名(累積 126 名、修了生全員を母数とする比率 88%) ③ 達成
2017 年度	<b>年次計画内容</b>		
	[1-1] 臨床心理士養成指定大学院としての位置づけを維持し臨床心理士資格に資する人材養成を行ってきているので、本年度の状況を把握し必要な対応を計画ないし遂行する。		

中期計画【計画 2】(目標 2 に対応する計画)		達成度評価指標【指標 2】	
	[1-1] 理念・目的を刊行物、ホームページ、ガイダンスで周知し、公表する。		① 修士論文抄録集 ② WEB 上修士論文タイトル ③ 心理臨床センター紀要 ④ WEB 版心理臨床センター紀要(抜粋) ⑤ 学院ホームページ
2016 年度	<b>年次計画内容</b>	<b>計画実施状況</b>	<b>指標に基づく中期目標の達成状況</b>
	[1-1] 研究科の理念・目的などについて、学内・学外における大学院説明会において説明を行い、周知を図る。	計画に沿って遂行した。 一期入試、二期入試に関わる学内・学外説明会において説明・周知を図った。(指標④⑤は年度をまたぎ作業)	① 達成(資料添付) ② 達成(研究科委員会議事録) ③ 達成(心理臨床センター運営会議) ④ 達成 ⑤ 達成
2017 年度	<b>年次計画内容</b>		
	[1-1] 研究科の理念・目的などについて、学内・学外における大学院説明会において説明を行い、周知を図る。		

## (13) 大学院地域社会マネジメント研究科

中期計画【計画 1】(目標 1 に対応する計画)		達成度評価指標【指標 1】	
	[1-1] 現行の理念・目的と、これまでの教育・研究活動の成果との関連性について評価する。		①進路決定状況(自律) ②社会活動参加状況(人権・共生)
2016 年度	<b>年次計画内容</b>	<b>計画実施状況</b>	<b>指標に基づく中期目標の達成状況</b>
	[1-1] 地域社会マネジメント研究科の理念・目的に沿って現在の教育・研究活動を検証し、今後の地域社会マネジメント研究科の方向性について検討する。	今後の地域社会マネジメント研究科の方向性については運営会議で議論したが具体的な方向性はまだ検討中である。	①今年度は社会人を除く修了生は 1 名である。進路は未定である。大学教育と関連する分野への就職を希望している ②社会活動の参加についてはなかった。
2017 年度	<b>年次計画内容</b>		

1. 理念・目的

年度	[1-1] 地域社会マネジメント研究科の理念・目的に沿って現在の教育・研究活動を検証する。今後の大学の学部再編の状況を見ながら、地域社会マネジメント研究科の方向性を検討する。
----	---

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】				
[2-1]	パンフレット、履修要項、ホームページ、ガイダンスを通じた周知方法の効果を検証するとともに、新たな周知方法を検討する。	①理念・目的の認知度調査結果				
2016年度	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年次計画内容</th> <th>計画実施状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>[2-1] 研究科の理念・目的をパンフレット、履修要項、ホームページ、ガイダンスを通じて周知させる。</td> <td>今年度もパンフレット、履修要項、ホームページ、ガイダンスを通じ、周知させた。</td> </tr> </tbody> </table>	年次計画内容	計画実施状況	[2-1] 研究科の理念・目的をパンフレット、履修要項、ホームページ、ガイダンスを通じて周知させる。	今年度もパンフレット、履修要項、ホームページ、ガイダンスを通じ、周知させた。	指標に基づく中期目標の達成状況 認知度調査は行わなかったがガイダンスなどを通じ周知している。
年次計画内容	計画実施状況					
[2-1] 研究科の理念・目的をパンフレット、履修要項、ホームページ、ガイダンスを通じて周知させる。	今年度もパンフレット、履修要項、ホームページ、ガイダンスを通じ、周知させた。					
2017年度	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年次計画内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>[2-1] 研究科の理念・目的をパンフレット、履修要項、ホームページ、ガイダンスを通じて周知させる。</td> </tr> </tbody> </table>	年次計画内容	[2-1] 研究科の理念・目的をパンフレット、履修要項、ホームページ、ガイダンスを通じて周知させる。			
年次計画内容						
[2-1] 研究科の理念・目的をパンフレット、履修要項、ホームページ、ガイダンスを通じて周知させる。						